



神戸薬科大学
Kobe Pharmaceutical University

Press Release

No.KPUnews202408

報道関係者 各位

2024年11月27日

学生の意見を取り入れた学生ファーストの大学運営へ
～在学生と理事長によるランチョンミーティングを開催～

学校法人神戸薬科大学(神戸市東灘区、理事長:宮田 興子)は、学生ファーストのよりよい教育環境の提供を目的に、在学生と理事長によるランチョンミーティングを下記の日程で開催します。昼食会形式での開催をすることにより、学生がリラックスして話すことができる環境を整えながら、学生の生の声を聞くことで、今後の更なる大学運営の意識改革を行います。

- ・日 時:2024年11月28日(木) 13:00～14:00
- ・場 所:神戸薬科大学 理事長室



本イベントは学校法人神戸薬科大学 理事長 宮田興子当人が、今後の大学間競争における戦略立案には、学生の意見を取り入れることによる大学運営陣の意識改革が必要不可欠との観点から、企画を立ち上げました。今後の大学運営に際しては、学生ファーストの信条を忘れず、学生の意見を生かすことが何よりも重要と考えています。

また、近年の高等教育は学修者中心の教育へとパラダイムシフトが起こっており、教員が何を教えたか、ということよりも、学生が何を学び、何を身につけたかに焦点をあてた、ラーニング・アウトカムを重視する傾向になっています。そのような背景を踏まえ、本学としては学びの主体となる学生の意見を大学運営に



反映させることは、学修者中心の教育を行う姿勢を強めるものであると考えております。

本イベントは宮田理事長が本学の学長であった時代から定期的な開催をしています。自らも神戸薬科大学の卒業生である宮田理事長は、自身の経験と現在の学生の意見とのギャップに毎回驚かされていると語っており、その驚きこそが現在まで自身が持ち得なかった視点であると、本イベントに手ごたえを滲ませます。宮田理事長は「自身の固定観念を取り払わなければ次の成長は見込めない。学生との意見交換を交わす中で毎度感じていることは、学生が何を考えているのか、求めているものは何か、短い期間の中でも学生たちの需要や思考は大きく変わり、非常に流動的であるということ。学生と直接話をするすることで、アンケートのような無機質なテキストで記載された意見だけでは感じられない、そのような学生たちの気持ちを直接肌で感じられる」と語っています。

パラダイムシフトによる転換点を迎える以前より、大学の主体を担うのは学生であるというのが本学の認識でした。本学は常にその原点に立ち返り、学生ファーストの姿勢を崩しません。

このように本学は、主体的な意識の新陳代謝を欠かさず、学生たちの思いを常にキャッチアップしながら大学運営を行うことを信条とし、この企画を実行しています。

<報道に関する問い合わせ>

神戸薬科大学 事務局 企画・広報課

〒658-8558 神戸市東灘区本山北町4丁目19-1

TEL: 078-441-7505 FAX: 078-414-8081

E-mail: kikaku@kobepharmaceutical-u.ac.jp

URL: <https://www.kobepharmaceutical-u.ac.jp>